

新たな「県立高校将来構想」の骨子(素案)

今後の県立高校の在り方 についての審議会での意見

【1 高校教育の質の向上】

- ・基礎的な学力、学ぶ意欲の問題について示すことが必要
- ・進学や学力がすべてではないが、大学進学については、無視できない重要な要素
- ・現役進学率を高めるべき
- ・98%を超える高校進学率や50%の大学進学率を考えれば中学校や大学とのつながりの中で高校教育を考えるべき
- ・社会人として、コミュニケーション能力の育成が必要

【2 キャリア教育の推進】

- ・キャリア教育の充実による子供への有能感の付与
- ・生涯における自分のキャリア形成のイメージを高校教育の中に入れていくべき
- ・高校教育の多様化の中で、生きる力、自己実現、進路達成の実現が達成できる基本方針が必要
- ・普通科を含めて、自分にあったキャリア形成にむけてカリキュラムに入れていくことが必要
- ・普通科卒の就職者にはキャリアプランを作っていくことが必要
- ・普通科は職業教育を受けずに、労働市場に向かわなければならない

【3 地域社会との連携】

- ・社会、企業、家庭も教育を担っており、その役割について言及すべき
- ・富県戦略に向けて必要な人材を踏まえて教育を考えるべき
- ・大卒者、大学院卒者が地元に残り活躍できる産業構造を作ることが必要
- ・企業進出に対応した自動車関連コースの設置や企業連携した単位なども考えられたい
- ・農業とマーケティングが一体となった高校も研究すべき
- ・農業教育の持つ多様性を発揮できる教育を考えたい

【4 生徒減少への対応】

- ・高校の全入状況を踏まえれば「機会均等」という理念も大事にしていかなければならない
- ・人口、財政の論理では統合せざるを得ないが、地理的条件、学校の伝統、住民ニーズ等を踏まえ構想をまとめていくことが必要
- ・経営的に生徒数が少ないところは統合となるが、教育はそれだけでも割り切れないと思う
- ・生徒数が激減する中で、進学・就職という出口だけでなく、入り口の視点からも考えるべき
- ・県が浦高校と気仙沼高校の統合はその後の評価を含めて良かったと感じている

【5 学校経営の改善・教育環境の充実】

- ・魅力的な学校を作るためには、教師の力量アップが必要
- ・地域との連携を深めるために、学校公開を積極的に進めるべき
- ・地域の経営者や様々な立場の人から積極的に意見を聞き取るようにすべき

第1章 新たな県立高校将来構想の策定について

これまでの高校教育改革の取組み

新たな県立高校将来構想の位置づけ

第2章 高校教育を巡る現状と課題

社会経済環境の変化と課題

- グローバル化・情報化の進展
○経済活動のサービス化
⇒ ◎知識基盤社会の本格的な到来への的確な対応
- 分権型社会の到来と厳しい財政状況
○地域産業構造の変化の兆し
⇒ ◎地域活性化も念頭に置いた、人材育成と学校配置
- 雇用形態の変化
○就職決定率の上昇
○大学全入時代の到来
(定員割れ大学の顕在化、大学等進学率59%; 浪人含む)
⇒ ◎的確な進路指導による希望進路実現への支援
- 家庭・地域の教育力の低下
⇒ ◎家庭・地域との連携の促進

県立高校を巡る現状と課題

- 生徒減少(今後10年間で▲3,000人)
○高校の小規模校化
○全県一学区の導入(H22年度から実施)
⇒ ◎適正な学級編成、教育の機会均等に配慮した学校・学科配置
- 産業構造(就業状況)と学科、教育課程の乖離
○学力の低下への的確な対応
○低い大学等進学率・現役進学達成率
(進学率50%; 全県31位、進学達成率84%; 全県38位)
⇒ ◎進路希望の実現、地域産業を考慮した的確な人づくり

第3章 今後の県立高校教育の在り方

未来を担う人づくりの方向性

1. 時代を生き抜く力の育成

- 基礎・基本、知識・技能、学ぶ意欲・課題発見解決能力等
バランスのとれた「確かな学力」
- 社会で通用するコミュニケーション能力
- 時代環境を踏まえ、物事を考え、行動できる力
- 実社会における実践的知識・技術・技能・センス

2. 職業観・勤労観の育成

- 将来にわたる継続的な進路形成力・進路決定力
- 自己実現と運動した社会性のある勤労観

高校教育改革の方向性

1. 高校教育の質の向上

- 《例》
- 中学校との連携促進一教育力の向上・基礎・基本の着実な定着
 - 授業理解度の向上
 - 希望進路の達成(就職・進学)
 - 多様な就学動機への対応

2. キャリア教育の推進

- 《例》
- 学習意欲の喚起と有能感の付与
 - 進路相談(キャリアカウンセリング)・職業情報提供の充実
 - 地域社会・大学・専門学校等とのリエゾン(連絡)機能の強化
 - 普通科におけるキャリア教育の充実

3. 地域社会との連携

- 《例》
- 地域経済(産業構造等)に対応した学科編成
 - 大学・企業・地域産業と連携した専門教育の充実
 - 地域社会と連携した学校運営・学校開放
 - インターンシップの充実

3. 地域社会・産業を担う能力の育成

- 地域産業を支える人材(富県戦略を担う人材①)
- 地域でも国際感覚を持って活躍できる人材(富県戦略を担う人材②)
- 地域社会を担う人材
- 国際的に活躍できる人材

4. 豊かな人間性・社会性の育成

- 人間力(学力やスキルのみにとらわれない、人間としての総合的な能力)

4. 生徒減少への対応

- 《例》
- 教育環境の維持・向上に配慮した学校規模の確保
 - 生徒減少期における適切な全日制・定時制・通信制の配置
 - 多様な生徒への対応 等々

5. 学校経営の改善・教育環境の充実

- 《例》
- 教職員の資質の向上(研修の充実・支援)
 - 学校の組織運営体制の改善・充実
 - 施設・設備の充実
 - 開かれた学校づくりの推進
 - 外部評価の活用
 - 安全管理体制の確立

第4章 学校再編の在り方

学校の在り方

- 《例》
- 総合学科・総合産業高校
 - 中高一貫校
 - 単位制
 - 定時制
 - その他

学科の在り方

- 普通科
- 専門学科
 - ・工業科
 - ・商業科
 - ・農業科/水産科
 - ・理数科/英語科
 - ・その他

学校配置の在り方

- 学校再編の考え方

第5章 将来構想の推進

家庭・地域社会への期待

- 役割分担の明確化と連携促進
- 家庭教育への期待
- 地域の教育力向上への期待

適正な進行管理

- 構想の着実な推進